

4 多彩な“FORCE”活用による取り組み紹介

Cloudをプラットフォームに多彩な技術で ビジネスを加速、「クラウドCOE」組織紹介

DXを推進する上で、ITインフラは非常に重要な要素となる。市場では多岐に渡るクラウドサービスが存在し、企業は今、ベンダーやサービスの選定眼が問われている。株式会社NTTデータビジネスシステムズでは100名を超えるマルチクラウド集団を組織化しており、その取り組みについて伺った。

クラウド特任組織 「クラウドCOE」を設立

コロナの影響は社会を大きく混乱させたが、一方で私たちの生活に変化をもたらせた。テレワークは当たり前になり、今やオンラインでビジネスが成立する時代になった。その証拠に、デジタル投資は回復傾向にあり、日本におけるクラウドサービスは一層の需要が期待されると言えるだろう。一方で、クラウドは実装モデルも多岐に渡り、様々なベンダーがサービスを展開する中、事業継続等のリスクヘッジやデジタル変革に向け、最適なサービスを選択し実装する「マルチクラウド」に対する関心が高まってきている。

NTTデータビジネスシステムズでは長年に渡り様々な基盤技術やク

ラウド導入を経験してきている。緊急事態宣言が発令された2020年4月、クラウド領域を専門的に扱う特任組織、「クラウドCOE (center of excellence)」が新設された。

マルチクラウドに対する挑戦

NTTデータビジネスシステムズでは、長年モバイル業界におけるミッションクリティカルな大規模プロジェクトに長年参画している。同業界は様々なサービスモデルを展開していることから事業を支え、変化に柔軟に対応できるITインフラを重視する。ビジネスの複雑化が進む中、特定の技術、サービスのみでは顧客要望に応えられないがNTTデータビジネスシステムズはマルチクラウド集団として現在116名のエンジニアが所属、AWSをはじめ



株式会社NTTデータビジネスシステムズ
第二システム事業本部
第一エンタープライズ事業部
基盤技術部 クラウドCOE
統括グループマネージャー 新田 健彦氏

習得も積極的に取り組み、サーバレスやコンテナ、マイクロサービス、CI/CD、機械学習、IoT、DWH等、クラウドネイティブ技術の研鑽も余念がない。

今後の展望

今後の展望を新田氏は熱く語る。「DX推進にインフラ技術は欠かせない要素です。当社はimforceを事業展開しておりますが、お客さま環境を踏まえた最適解を我々クラウドCOE部隊が必ず導き出し、お客さまのビジネス変革を誰よりも鮮明に描き実現します。」(新田氏)

AzureやGoogle Cloud Platform等、ハイパースケALERが提供するクラウドを網羅的に扱い、インフラに留まらず、システム開発、アーキテクトも含む一体型対応チームを確立している。R&Dを通じた技術



図1 クラウドCEOが目指すビジネスモデル